

第4学年2組 外国語活動学習指導案

【日時】令和6年7月23日(火) 10:20～11:05 【場所】多目的室3 【指導者】小林 佳愛

本授業の参観の視点

国籍や年齢、スポーツ経験の有無に関わらず、みんなで楽しめる「4の2国スポ」を成功させるという目的意識をもち、友達や留学生のために考えたデモンストレーションスポーツを、友達に分かりやすいよう工夫して伝え合う児童の姿をご覧ください。

- 1 単元名 4の2国スポを開こう！ ～Let's think about demonstration sports!～
(Let's Try! 2 Unit 7 参照)

2 単元の構想

(1) 単元について

本単元は、Let's Try! 2 “What do you want?” を基に、児童の実態と興味・関心に合わせて内容を構成している。今年佐賀県で開催される「SAGA2024」には、国籍や年齢、スポーツ経験の有無に関わらず、多くの人がスポーツで得られる喜びを共有できる大会にしたいという思いや願いが込められている。児童がスポーツを「する」「観る」そして「支える」立場に立ち、友達や留学生のために、みんなで楽しめるデモンストレーションスポーツを考え、伝え合うことを通して、よりよい紹介の仕方を考えたり、友達の考えのよさに気付いたりすることをねらう。なお、本単元では、話すこと[やり取り]において、動作等を交えながら自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようになることを目指す。これは、高学年外国語科や中学校英語科での、簡単な語句や文を用いてその場で質問をしたり答えたりして伝え合う、即興でのやり取りにつながっていく。既習の英語表現と他教科等の学びを結び付けながら、友達との交流や自己の表現をよりよいものにしようとする児童の姿を期待する。

(2) 児童について

本学級の児童(32名)を対象に、コミュニケーション能力の素地となる資質・能力として、方略的能力(何とかして自分の考えや気持ちなどを相手に伝えようとしたり、相手の意図を理解しようとしたりする能力)に焦点を当て、質問紙調査を行った。多くの児童が、自分の考えや気持ちを相手に伝えるために、ジェスチャー等を用いて伝えたり、反応を示したりすることができるようになってきたと感じている(97%)。一方で、相手の話が分からないとき、聞き返したり繰り返して確認したりするなど、コミュニケーションにおいて困難が生じたとき、どのように克服するかについて課題を感じている児童も少なくない(34%)。児童は外国語でのコミュニケーションにおいて、相手の意図が完全に理解できないまま、その状況を改善せずにやり取りに向かう自身の側面を認識していることが伺える。本単元での伝え合う活動を通して、知らない表現を相手に分かりやすい簡単な表現に変換したり、非言語を用いたりするなど、工夫しながら相手に自分の考えを何とかして伝えようとする態度や、考えの異なる相手の考えを受け取り、理解しようとする粘り強さを育みたい。

(3) 指導について

単元を構成する際には、ゴールを「留学生と一緒に、クラスみんなで楽しむことができる4の2国スポを開こう」とし、逆向き設計で内容を組み立てる。Think(相手意識・目的意識をもち、どんなことを伝えたいか考える)、Try(表現してみる、伝えてみる)、Reflect(振り返り、自分の課題を明確にする)のサイクル(図1)を往還しながら、児童が言語を使用する中で学ぶことができるよう、目的のある練習と言語活動を仕組んでいる。友達や留学生と一緒にスポーツを楽しむ

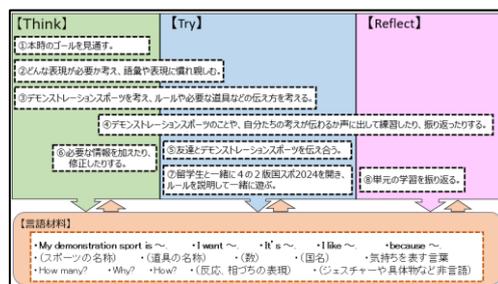


図1 本単元のT2Rサイクル

ために、自分の考えたデモンストレーションスポーツを紹介するという明確な伝える目的をもち、自分の考えについて内容を整理したり、慣れ親しんだ表現を繰り返し用いながら自信をもって話したりすること

ができるように指導していく。さらに、自分とは異なる考えをもつ友達との対話を積み重ねることで、質問をして相手の思いを引き出したり、相槌を打つなど反応を示すことで相手の考えを受け止めていることを伝えたりするといった、他者に配慮しながらコミュニケーションを行うために必要な能力を育てたい。

単元の導入で、総合的な学習の時間において学んでいる「SAGA2024 国スポ・全障スポ」について取り上げる。大会に込められた思いや願いについて改めて考えながら、「スポーツを通して様々な人とつながりたい」という意欲や、そのためにどんなことをやってみたいかについて児童の考えを引き出す。そこから「外国の方と一緒にスポーツをやりたい」「みんなで楽しむために、競技の内容を考え、伝えたい」という活動への明確な相手意識・目的意識をもたせることにつなげていく。活動を進める中で、様々なスポーツについて説明する教師のモデルを示したり、実際に教師の説明を聞いてデモンストレーションスポーツを体験させたりすることを通して、相手に分かりやすく伝えるために必要な情報や表現を共有する。

単元の終末には、実際に留学生を招き、学級で「4の2国スポ」を開く。児童が自らの提案によって行事を成功させたという達成感や、友達や留学生とスポーツを通してつながる喜びを感じることで、今後も学んだことを様々な社会生活場面に生かそうとする態度を育むことができると考える。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本単元及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊の学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが表1である。

表1 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿

	内容	資質・能力	児童の姿
ステージA 「単元・領域」	外国語活動 「オリジナルピザ を作ろう」	・相手のほしいものについて尋ねたり、自分のほしいものについて答えたりすることができる。 【知識及び技能】	・自分の考えたスポーツに必要なものについて、ほしいものを伝える表現“I want～”や非言語材料を活用しながら伝えて合っている。 ・友達の考えたスポーツに必要なものについて、ほしいものを尋ねる表現“What do you want～?”や“How many～?”、非言語材料等を活用しながら質問したり反応したりしながら聞いている。
ステージB 「自教科」	外国語活動 「話すこと [やり取り]」	・自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら伝え合っている。 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	・自分の考えた競技の内容を相手に分かりやすく伝えるために、これまでに慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を使って伝え合っている。 ・どうすれば相手により伝わるかを考えながら、表現する内容や方法を自己選択している。
ステージC 「他教科」	国語科 「A 話すこと・聞くこと」	・資料を活用するなど、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。 【思考力、判断力、表現力等】	・自分たちの考えたスポーツについて、非言語材料や具体物を用いて相手に分かりやすいよう工夫して伝え合っている。
	総合的な学習の時間 「SAGA2024 に 込められた思い」	・国スポ 2024 に関わる人々の願いから問いを見だし、その解決に向けて考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ、表現している。 【思考力、判断力、表現力等】	・性別、国籍、スポーツ経験の有無などに関わらず、どんな人とも一緒に楽しめるスポーツの在り方について考え、表現している。
	体育科 全領域	・運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたりしている。 【学びに向かう力、人間性等】	・協力して何かを成し遂げることの素晴らしさを味わっている。 ・友達の意見に耳を傾け、よい考えや取組を認めようとしている。 ・誰とでも楽しく運動することの意義や価値を考えている。
ステージD 「実社会・実生活」	SAGA2024	・学習したことを実社会や実生活の中で活用しようとする。 【学びに向かう力、人間性等】	・留学生やクラスの友達、地域の方々と積極的に関わり、互いのよさを生かしながらスポーツと一緒に楽しむために自ら行動しようとしている。

みんなで楽しめる「4の2国スポ」にするためには、様々な視点をもつ他者の発想を取り入れながらアイデアを生み出したり、複数の考えを統合的に捉えながら聞いたりすることが大切である。児童が友達とのやり取りを通して、自分の考えを伝えるために、分かりやすい英語表現を探したり、ジェスチャーや具体物等を用いて表し方を工夫したりする。その中で、コミュニケーションを改善していく姿や、質問や反応をしながら相手の考えを受け止めることを通して、友達のもつ様々な考えのよさに気付いている姿を実現したい。活動の際に「友達のスポーツの魅力」「互いの伝え方のよさ」等について問うことで、自分が他者の発想から何を学んだのか振り返り、自分のコミュニケーションに生かすことができるようにする。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

「4の2国スポ」を成功させるために、考えたデモンストレーションスポーツについて、友達や留学生に分かりやすいよう、表現や方法を工夫して伝え合うことができるようにする。

(2) 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	スポーツの名称やスポーツに必要な道具に関する語彙、ルールを説明したり尋ねたりするために必要な表現に慣れ親しんでいる。	「4の2国スポ」を成功させるために、教師や友達の話聞いてその概要を捉えている。	「4の2国スポ」を成功させるために、教師や友達の話聞いてその概要を捉えようとしている。
話すこと [やり取り]	スポーツの名称やスポーツに必要な道具に関する語彙、ルールを説明したり尋ねたりするために必要な表現に慣れ親しみ、簡単な語彙や表現を用いて自分の考えを話すことができる。	「4の2国スポ」を成功させるために、既習表現や非言語材料を用いて説明したり質問に答えたりしながら、考えたデモンストレーションスポーツについて伝え合っている。	「4の2国スポ」を成功させるために、既習表現や非言語材料を用いて説明したり質問に答えたりしながら、考えたデモンストレーションスポーツについて伝え合おうとしている。

4 単元の指導計画 (全7時間 本時5/7時間目)

	主な学習活動 (○)	指導上の留意点(・)	評価の観点			評価規準(◆) 【観点】	回遊
			知	思	主		
1	○本単元のゴールを決める。	<ul style="list-style-type: none"> 「SAGA2024 国スポ・全障スポ」に込められた思いや願いを再確認し、活動への明確な相手意識・目的意識をもたせることで、伝える意識を高める。 活動の見通しをもたせるためにT2Rサイクルを用いる。 				<p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。</p>	C 他者
2	○スポーツに関する語彙、必要な表現に慣れ親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> Small Talkの中で、スポーツの名称やその道具やルールに関する語彙、提案する際に必要な表現に出合わせる。 	聞			<ul style="list-style-type: none"> ◆スポーツに関する語彙、提案するために必要な表現に慣れ親しんでいる。【知・技】 ◆日本と外国の表現の違いから、世界には様々な文化があることに気付いている。【知・技】 	A
3	○みんなが楽しめるデモンストレーションスポーツを考え、友達と伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> 活動の前に、誰に何のためにどんなことを伝えるのか、伝え合う相手と目的を明確にする。 既習表現を繰り返し用いながら様々な友達と話す機会を設定することで、必要な語彙や表現を生かすことができるようにする。 	や			<ul style="list-style-type: none"> ◆自分で考えたデモンストレーションスポーツの概要について、既習表現を用いて伝え合うことができる。【知・技】 	B C 他者
4	○考えたデモンストレーションスポーツについて、クラスの友達に詳しく伝える準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> 似ている発想をもつ児童同士をつなげ、一緒に表現や伝え方を考えることができるようにする。 スポーツの概要や自分たちの考えを伝えるために、練習をする時間を設ける。 伝え方の工夫について整理する。 		聞	聞	<ul style="list-style-type: none"> ◆デモンストレーションスポーツについての話を聞き、その概要を捉えている。【思・判・表】 ◆考えたデモンストレーションスポーツについて相手に分かりやすく伝えようとする姿勢をもち、そのための工夫を考えている。【主】 	A B C 他者
5 本時 6	○班で考えたデモンストレーションスポーツについて、クラスの友達と伝え合う。 ○実際に行う種目を決める。	<ul style="list-style-type: none"> 活動の前に、誰に何のためにどんなことを伝えるのか、伝え合う相手と目的を明確にする。 活動の途中では、必要に応じて中間指導を行い、やり取りの中でのよい点を共有したり、困り感があればその解決を図ったりする。 		や	や	<ul style="list-style-type: none"> ◆みんなで楽しめる「4の2国スポ」を開くために、相手に分かりやすい工夫しながら伝え合っている。【思・判・表】【主】 	A B C 他者
7	○留学生を招いて、クラスで「4の2国スポ」を開く。 ○本単元の活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 留学生と積極的に関わろうとする児童の姿を称賛する。 単元全体を通して、どのような学びの過程の中で、どんな力が身に付いたについてT2Rサイクルを用いて振り返る。 SAGA2024を通して、どのように他者と関わっていききたいか、児童の考えを尋ね、共有することができるようにする。 		や	や	<ul style="list-style-type: none"> ◆相手に伝わるよう工夫しながらスポーツの概要を説明したり、自分の考えや気持ちを伝えたりしようとしている。【思・判・表】【主】 	C D 他者

※聞：「聞くこと」、や：「話すこと [やり取り]」

5 本時の指導 (5/7)

(1) 指導目標

考えたデモンストレーションスポーツについて、既習表現や非言語材料を用いて相手に伝わるように工夫しながら紹介したり、相手の考えを聞いて反応や質問をしたりすることで、互いの考えを理解することができるようにする。

(2) 評価規準

イウ みんなで楽しめる「4の2国スポ」を開くために、相手に分かりやすいよう工夫しながら伝え合っている。
【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開 (波線部は「回遊する学び」に関わる手立て)

学習活動と児童の反応 ()	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 前時までの活動をふり返り、本時のめあてを確認する。(5分)</p> <p>自分の考えたスポーツを早く友達に伝えたい。 友達はどんなアイデアをもっているのか聞きたいな。 分かりやすく伝えるにはどうしたらいいかな。</p>	<p>1-(1) 本時の活動の見通しをもたせるために、前時までに児童と共有したT2Rサイクルを振り返る。</p> <p>1-(2) 単元のゴールでは、留学生を招いて「4の2国スポ」を開き、スポーツで交流することを確認し、本時の活動に目的をもって取り組むことができるようにする。</p>
<p>デモンストレーションスポーツを友達と伝え合おう。</p>	
<p>2 教師の考えたデモンストレーションスポーツについての話を反応しながら聞く。(5分)</p> <p>T (教師) : My demonstration sport is "balloon volleyball". S (児童) : Balloon volleyball? What sports? (→内容) T: It is easy volleyball. I want balloons. (→必要なもの) S: How many? (→数) T: 10 balloons. I want big balloons and small balloons. S: Good!</p> <p>先生が考えたスポーツは風船バレーだね。 ボールを10個使うんだって。面白そう! 実際に使う物を見せると分かりやすいな。 誰でもできて簡単だから、みんなと一緒に楽しめそうだ。</p>	<p>2-(1) 考えたデモンストレーションスポーツについて伝えるための表現を想起させるために、既習表現を繰り返し用いたり、児童に問いかけたりしながら話す。(A)</p> <p>2-(2) 児童が話の概要を捉えることができるようにするために、視覚補助として具体物を見せたり、ジェスチャーを交えたりしながら話す。</p> <p>2-(3) 児童が自信をもってやり取りに向かうことができるようにするために、必要な語彙や表現、伝え合う際に工夫することを、絵カード等を用いて視覚的に提示する。</p>
<p>3 デモンストレーションスポーツを友達と伝え合う。(30分)</p> <p>(1) 考えたデモンストレーションスポーツを他の班の友達と伝え合う。</p> <p>【児童同士のやり取りの例】 S1: Hello. My demonstration sport is rugby soccer. S2: Rugby soccer? S1: Yes. I want soccer ball and rugby ball. S2: How many? S1: 1 soccer ball, and 1 rugby ball. S2: What rules? S1: (ジェスチャーをしながら) Kick, OK. NO hands! S2: I see. Nice idea!</p>	<p>3-(1) 様々な考えをもつ友達と交流するために、考えたスポーツや発想が似ている児童同士でグループに分けておき、グループ同士の共有を図る。</p> <p>3-(2) 前時までに整理した「伝え方の工夫」を掲示しておき、児童がやり取りの中で自由に活用することができるようにする。</p> <p>3-(3) 相手にうまく伝わらなかった内容や、言い表せなかった英語表現などの困り感を解消できるよう、既習表現を用いた表現や伝えるための方法を一緒に考える。(BC他者)</p>
<p>(2) 班に戻り、自分の班の紹介について再考する。</p> <p>○班は、サッカーボールを2つ使うって言っていた。面白そうだからやってみる? △班は、やわらかいボールを使うって言っていた。ボールのかたさまで伝えていると分かりやすいね。 □班はジェスチャーで表していてどんなスポーツか一目で分かったよね。わたしたちもまねしてやってみよう!</p>	<p>◆ 考えたデモンストレーションスポーツについて、友達に分かりやすいよう工夫して伝え合っているか。(観察、振り返り) 【思・判・表】【主】 B デモンストレーションスポーツについて、相手に分かりやすく伝えるようジェスチャーや具体物等を用いて伝え合っている。 C→ 伝えたい内容を確認、一緒に練習したり似ている考えをもつ児童同士をつなげたりして、話すことへの不安を解消する。</p>
<p>(3) 伝え方を工夫して、再度友達と伝え合う。</p> <p>4 本時の活動を振り返る。(5分)</p> <p>工夫して伝えたらスポーツのことが伝わって嬉しかった。 留学生たちにも伝わるかな? 伝わるといいな。</p>	<p>3-(4) 児童同士のやり取りを取り上げ、相手意識をもった伝え方や聞き方、反応の仕方を称賛することで、そのよさを共有する。(BC他者)</p> <p>4-(1) 伝え合う際に工夫したこと、友達の伝え方や聞き方のよさに気付いている児童の振り返りを共有する。</p> <p>4-(2) T2Rサイクルを用いて、次回の活動の見通しをもつことができるようにする。</p>